1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号		
法人名 医療法人 政裕会 ときつ医院		
事業所名		
所在地 福岡県福岡市西区内浜2丁目6-7		-7
自己評価作成日	平成25年5月11日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟

64 な支援により、安心して暮らせている

(参考項目:30)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アー	株式会社 アーバン・マトリックス福祉評価センター				
所在地	福岡県北九州	福岡県北九州市戸畑区境川1-7-6				
訪問調査日 平成25年5月24日 評価結果確定日 平成25年8月26E						

|Ⅴ サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目Mo.1~55で日頃の取り組みを自己占給したうえで 成果について自己評価します.

4. ほとんどいない

4. ほとんどいない

1. ほぼ全ての利用者が

2. 利用者の2/3くらいが

3. 利用者の1/3くらいが

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体は長年、当地で医院として開業しており、地域の医療機関としての役割を果たしている。更に事業所は介護保険施行前よりすでにグループホームとして開設し、オープン当初より"看取り"を理念に掲げた運営を実践している。その方針は利用者の方々をはじめ、法人のスタッフ全員にも浸透しており、力強い信念を作り上げている。階下に併設している医療機関よりスピーディで手厚い医療を受けることができるため、利用者、ご家族の精神的な安心を提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ベースキャンプ楽居として、母体医療機関や高齢者住宅、デイサービスが併設された3階に、グループホーム楽居は位置している。開設以来、医療との密な連携を活かしながら、暮らしの延長にある看取りを支援していくことを理念として掲げ、医療ニーズの高い方への支援が行われており、開設16年目を迎える当事業所の大きな特徴である。 運営推進会議には地域からの参加も多く、地域包括支援センターより様々な視点から情報提供が行なわれたり、地震や水害等の災害を想定した話し合いも行われており、有効的に活用されている。長期に入居されている方も多く、管理者、職員は、個別のQOLの維持を念頭に置き、表情や仕草等の変化を大切に捉えながら、安心して過ごせるよう取り組んでいる。

٧.	V. ケーと入り以来に関する項目(アウドガム項目) ※項目INUTY 00で目頃の取り組みを目じ点換したりたで、以来について目じ計画しよす					
	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目	↓該:	取 り 組 み の 成 果 当するものに〇印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 〇 2. 利用者の2/3くらいの	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができ	0	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと
	(参考項目:25,26,27)	3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない		ている (参考項目:9,10,21)		3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
E 0	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が	O 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある	- 66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が話わて来ている。	0	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度
ว9	ある (参考項目:20,40)	3. たまにある 4. ほとんどない	- 00	域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		3. たまに 4. ほとんどない
	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている
60	参考項目:40)	3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	6/			3. あまり増えていない 4. 全くいない
	利用者は、職員が支援することで生き生きした表	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが		職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	0	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが
61	情や姿がみられている (参考項目:38,39)	3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68		_	3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満	0	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが
62	(参考項目:51)	3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	- 69	足していると思う		3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
00	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な	1. ほぼ全ての利用者が 〇 2. 利用者の2/3くらいが	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお	0	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが
63	く過ごせている (参考項目:32,33)	3. 利用者の1/3くらいが	10	おむね満足していると思う		3. 家族等の1/3くらいが

4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果						
自	外	- F	自己評価	外部評価	西	
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ι.Ξ	里念(こ基づく運営				
1		〇理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念 をつくり、第222章と職員は、その理念を共有して実践	設立当時より掲げている理念に基づいて、職員は個々の入居者に対し、その方々の立場に立った「人間の尊厳」を第一とする介護等のサービス提供を	職員採用時には、理念を共有できることを重要		
		につなげている	会合への参加などで交流の機会を作り、地域とのつながりを強くするように努めている。また、管理者および各職員間では、適宜行われているミーティングにおいて、個々の入居者に対して理念に基づいた介護等の提供ができているかを確認、共有する機会としている。	ら、新たな理念を作成する等、理念の再構築を		
2	(2)		わりに出席させてもらっている。	法人として自治会に加入しており、職員が夜間パトロールや花壇の整備等に参加し、地域の一員として活動している。また、町内の定例会や懇親会に参加し、認知症ケアについて理解を広めている。運営推進会議には、地域からの参加も多く、災害対策等について、実効的な働きかけが行われている。	今後は、介護教室の開催等、地域に向けた更なる情報発信に取り組んでいく意向である。また、災害対策への実効的な連携や、新たな連携を入居者の方々との交流に活かしていく意向もあり、法人としてのスケールメリットも活かしながら、地域拠点としての活動展開が大いに期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活 かしている	町内の行事や定例会への参加した際に認知症の 理解に向けて現状を話したり、又、相談を受けたりし ている。運営母体はクリニックとして、又、往診、デイ サービス等で地域の高齢者との関わりが深い。			
4			2ヶ月に1回、運営推進会議を開き、ホーム内の様子や活動状況について報告している。家族、入居者(時々)、町内会、市町村、スタッフ等の出席があっている。各々の立場から、又、経験からの情報交換の場となり、ホームでの活動、サービスの向上に役立っている。	定期開催される運営推進会議には、入居者、家族、地域を代表する方々、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得ている。地域包括支援センターより、成年後見制度や悪徳商法、災害対策に関する情報提供が行われている。今年度より、子供会より参加を得る予定となっており、新たな交流や連携の広がりが楽しみである。		
5	(4)	〇市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議へは担当者が交代で参加してもらっている。会議終了後、ホームを案内し、実際をみてもらい、理解していただいている。検討案等についても適切なアドバイスを受け、大変参考になっている。	仃以担ヨ百か災告刈束に関する現状倪祭に訪		

1

É	外	75 B	自己評価	外部評価	<u> </u>
自己		項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」	代表者及び職員が共に身体拘束をしないケアを実践し、定期的に外部の研修会にも参加して、日々、研鑚を積んでいる。身体の他、精神的安定を考慮して、玄関は施錠せず、オープンにしており、出入りは自由になっている。	外部の取り組みを見学に出かけたり、勉強会でもテーマとして取り上げ、身体拘束を行なわないケアについて、職員の意識を高めている。ベースキャンプ楽居の3階に位置し、エレベーターの使用制限等は行なわれていない。言葉や対応による抑制についても、ミーティングやカンファレンスにて共有認識を図っている。	
7		待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止 に努めている	外部の研修会に参加したり、事業所内でも研修を 開催して、正しい知識でケアを実践し、虐待防止に 日々、努力している。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後 見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を 関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援して いる	情報を適宜行われるミーティングで、研修に参加した職員から他の職員へ情報共有が行われる。また、 当事業所では毎月行う勉強会で権利擁護をテーマ	権利擁護に関する制度について、外部研修への参加や内部勉強会でもテーマとして取り上げ、職員の理解を深めている。また、運営推進会議の中でも、地域包括支援センター担当者より、情報提供が行われている。現在、制度を活用している方もおり、関係機関との連携を図りながら、支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家 族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理 解・納得を図っている	入居される時や入居中、退去される時などは発生する契約や解約は、文書などの情報を提示したうえで、不明な点がないように説明を担当者が行う。その際は契約される本人の状態を考慮し、家族等の付き添いのもと行っている。また、契約内容の説明の際に本人および家族等より、情報の提供を求められた場合はそれに応じている。契約においても本人および家族の理解と納得が得られるように努めてい		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員なら びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反 映させている	ついては、スタッフミーティングや経営者との会議を 定期的に設けており、直ぐに反映できるようにシステム化している。また、町内会や区役所の担当者の運 営推進会議参加や社会福祉協議会の相談窓口案	家族の来訪する機会も多く、日常の様子を伝え、意見や要望の収集に努めている。出された意見や要望については、職員への周知を図るとともに全体での検討が行われ、迅速な対応に努めている。各区の行政窓口や関係機関の相談窓口を案内している。	
1	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提 案を聞く機会を設け、反映させている	意見ボックスの設置やスタッフミーティングを行うことで職員の意見をくみ上げ、毎月、経営者も参加して行なわれる責任者会議の場で提案・提示し、意見が反映されるシステムを作っている。	定例、及び必要時のミーティングを通じて、情報 共有や職員意見の収集に努めている。また、法 人としての責任者会議において検討され、フィー ドバックすることで、運営への反映に努めてい る。意見ボックスを設置しており、職員の主体的 な関わりを求めている。	

É	外	75 D	自己評価	外部評価	ш
=	, 部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1:	2	各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の 整備に努めている	労働時間、給与水準は労基法を順守し、保険年金等の福利厚生、賞与や表彰(永年勤務者など)を設けている。また、代表者は日常の中で職員の生活状況、悩み、職員間のコミュニケーション等の把握に努め、個別に話を聞く機会をなるべく設けている。研究会や学会への参加や定期的勉強会やグループホーム内でのイベントなどの実践は職員自ら自主的に行われており、これらに対しては支援を行っている。さらに、診療所併設の利点を生かした職員に対する細かな健康状態の把握および迅速な医療的サポートを行っている。		
		たっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、2名の代表者および経営者(男女各1名)の協議によって、理念への共感や適正等を重視し、性別・年齢等の差別が無い様に配慮している。また、資格取得を奨励しており、本年度も介護支援専門員、准看護師などの取得者を輩出している。	職員の採用にあたっては、理念の共有や人柄、協調性等を重視し、年齢や性別による排除は行わないようにしている。定年制は設けているが、希望があれば、継続も可能である。法人として、資格取得や外部研修への参加を奨励し、サポートを行っている。また、産休や育休の取得、復帰に向けた支援を行う等、働きやすい環境づくりに努めている。	
1	(10) 〇人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を 尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活 動に取り組んでいる	い、この中で入店者のこれまでの生活歴などを理解することにより入居者をより尊敬、共感できるように心がけさせている。また、行政等主催の人権研修や講習などの開催情報の提供を行い、参加を促している。本年度は人権研修の一環として勉強会の中で「拘束について」をテーマに行った。	た、運営推進会議の中で、地域包括支援セン	
1	5	保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	者の介護方法などの検討なども含まれており、職員全体の介護力の向上、均一化に努めている。また、学会や事業所外での講習会や研修に職員が積極的に参加できるよう参加費等の負担免除を行っている。本年度は日本認知症グループホーム大会(大阪)、福岡市認知症ケア研修など複数の研究会への参加を行ってきた。また、新規採用者に対しては業務マニュアルを作成し、業務内容を速やかに理解、実践できるよう心がけている。		
1	5	〇同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会 を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の 活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組 みをしている	グループホーム協議会へ加入しており、企画、運営等に参画し、本年度も当施設が担当となり、「防災について」をテーマに防災センターでの講習会を開催した。また、地域の病院等で行われる研修会や居宅介護支援事業者連絡会などへの参加も行っており、情報交換や連携を図ることでの向上に努めている。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	T
己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ι.5	史心と	:信頼に向けた関係づくりと支援			
17		○初期に築く本人との信頼関係	声かけ、会話を大切にし、少しずつ、心を開いても		
			があること、不安なこと等を探し出し、それらの要望		
		を確保するための関係づくりに努めている	等を受け入れ、不安や心配事を解消できるように努		
			めている。		
18		〇初期に築く家族等との信頼関係	情報を共有、交換し合いながら、関係を深めていく		
		サービスを導入する段階で、家族等が困っていることを表すると、悪質等に耳を傾けながる。関係でく	ことにより、不安や要望等を話しやすい場を作っている。入居者本人も交えて笑顔で会話をし不安等を		
		C、小女なこと、安皇寺に耳を傾けながら、関係 フ、 りに努めている	和らげる。		
		усэл су то	1437 00		
19		□ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	家族、本人の要望等にしっかりと耳を傾ける。ま		
'			た、スタッフ全員で意見を交換できる場をつくり、視		
			野を広くし、様々な角度から、家族や本人に適した		
		ス利用も含めた対応に努めている	支援、サービスを提供する。		
20		〇本人と共に過ごし支えあう関係	訪室時には声をかけ、様子を伺い、会話等で信頼		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮			
		らしを共にする者同士の関係を築いている	し、会話を交えながら和やかに過ごしている。		
21		〇本人を共に支えあう家族との関係	家族だからこそ知っている本人の好みや人柄等と		
		職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本 人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えて	いつに情報と、また、スタッフと本人が共に過ご9甲 での新しい発見や出来事等の情報を家族と共有し、		
		八と家族の科を入切にしながら、共に本人を文えて いく関係を築いている	大に本人を支えている。		
		· Name x · C · u			
22	(11)		家族同様、情報を共有、交換し、関係が途切れな	家族や友人の方が来訪する機会が多い。居室	
	(, , ,	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所と		には、家族の写真や愛着のある小物が置かれ	
		の関係が途切れないよう、支援に努めている	方々とコミュニケーションをとり、本人の元へと足が	ている。また、毎月、神父や友人が訪れ、信仰や	
			向きやすくしている。	関係性を継続されている方もいる。クリニックや	
				高齢者住宅、デイサービスを有するサポートリビ	
				ング楽居全体で、馴染みの関係性が築かれて いる。	
23		 ○利用者同士の関係の支援	│ │ スタッフが間に入り一緒に歌を唄ったり、お茶を飲	· · · · · · · ·	
20		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず			
		に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援			
		に努めている			
24		〇関係を断ち切らない取組み	退去された後もご家族への行事へのお誘いをして		
		性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経	何ったりして関係を続けている。		
		過をフォローし、相談や支援に努めている			

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	外 部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
25	(12)	〇思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討してい る	が出来ない入居者の場合でも返答が出来る出来ないにかかわらず、常に声かけ、表情の変化等から本人の気持ちを感じ取るようにしている。	言葉や表情の変化、何気ない仕草等を大切に 捉え、気づきを得られるよう職員教育を行なって	
26		〇これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人共に会話等でしっかりコミュニケーションをとり、スタッフ側からの質問だけではなく、家族、本人から話しやすい関係を築く。その上で得たこれまでの生活歴や生活環境などの情報をこれからの生活に活用していけるようにスタッフ全員でしっかり把握し、ミーティング時に話し合っている。		
27		〇暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	食事、排泄、入浴などそれぞれ活動する際には、 こちら側の都合や決まっている時間にとらわれるの ではなく、本人の状態、希望を優先し活動している。 また、今できている本人の能力を大切にし、すぐに 介助をせず、見守りをしながら、少しでもレベル低下 が防げるよう努力している。		
28	(13)	〇チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方に ついて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介 護計画を作成している	それぞれ気づく点や視点等も違うため、さまざまな 角度から入居者を見ることが出来ており、話し合い	本人、家族の意向を踏まえ、個別のカンファレンス等にて職員意見を収集し、医療や家族の視点も盛り込みながら介護計画を作成している。毎月、モニタリングを実施し、現状の確認と見直しの必要性について検討を行っている。	
29		〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を入居者の食事、水分量、排泄 や身体状況や暮らしの様子を記録している。個別記 録を基に介護計画の見直しを行い、評価を実施して いる。		
30		〇一人ひとりを支えるための事業所の多機能化本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関が階下にある為、急変時も大体の対応は可能な状態である。時に不可能な場合は他の協力医療機関へ入院となるケースもある。環境が変わった不安をおもい、時々、スタッフは面会や差し入れに出かけている。退院後の再診時、家族の都合で同伴ができない時は、スタッフがかわりに付き添い受診している。		
31		〇地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、 本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らし を楽しむことができるよう支援している	市事業によるオムツサービスの活用など介護保険外の情報も活用し家族に伝えている。運営推進会議には地域包括支援センター職員や町内会長、民生委員等の方が参加し、情報交換や協力関係を築いている。		

自	外	-= D	自己評価	外部評価	<u> </u>
己	部	項 目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(14)	〇かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得 が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きなが ら、適切な医療を受けられるように支援している	1Fのクリニックがかかりつけ医になっている。かかりつけ医とは長年の支援を受けており、本人や家族からも信頼を受けている。家族には受診の毎に結果や方向性を伝えている。又、入居前のそれに受診希望時は家族と共に援助する体制をとっている。	ベースキャンプ1階には母体医療法人が位置し、家族の大きな安心感にもつながっている。医療ニーズの高い方も多く、複数の協力医療機関との連携を図りながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		きを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相	高齢の入居者が多く、状態の変化が著しい時がある。看護師により毎週受けている健康チェックをもとに日頃からの状態把握、観察を十分に行っている。そこで、異常時は早期に適切な医療が受けられるスムーズな連携がとれている。		
34		〇入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係 者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そ うした場合に備えて病院関係者との関係づくりを 行っている。	係ができている状況にある。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段 階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でで きることを十分に説明しながら方針を共有し、地域 の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢者が多く、肺炎、胆嚢炎等を発症することが多く、その都度、家族(本人)に説明している。繰り返し発症がある時はかかりつけ医との話し合いの場を持ち、今後の方針も決めている。看取りの時は必ずかかりつけ医に連絡し、協力を得ている。	開設時より、看取りの支援を理念として掲げている。入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について指針をもとに説明し、意向確認を行っている。家族の状況にも配慮しながら、暮らしの継続としての看取りを支援している。状況の変化に伴い、医師との面接や話し合いを重ね、職員も情報を共有しながら方針を共有している。	
36		〇急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員 は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実 践力を身に付けている	年に2回ほど、大規模な学習会を行い、知識と実技の確認を行っている。不十分な場合は、少人数、個人での学習の場も提供している。		
37	(16)	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利 用者が避難できる方法を全職員が身につけるととも に、地域との協力体制を築いている	参加ができていない為、町内会の定例会時や運営 推進会議時に町内役員の方々へ声かけし、話をす すめているところである。その他の災害に対しても、 それぞれの対処法を法人全体で検討中である。又、 運営者と管理者、スタッフ等で校区の安心安全マッ プを基に避難先(学校、公民館、市の施設)まで実際	法人として連携を図り、定期的に避難訓練を実施しており、シーツを用いたシミュレーションも実施されている。また、実際に指定されている避難場所まで出かけ、様々な視点から適正を検討している。運営推進会議の中でも、様々な災害を想定した話し合いが行われている。今後も地域との連携体制の実効的な確認や、ライフラインの遮断を想定した準備等に継続して取り組んでいく意向である。	

自	外	- T	自己評価	外部評価	1
自己	外 部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
38	(17)		声かけは幼稚なものにならないよう、自尊心を傷つけないように年長者としての敬意を持って接している。また、排泄ケアの時は入り口の戸を必ず閉め、不用意な入室がない様、気をつけている。カーテンを利用する事もある。勉強会等で情報を共有する時はプライバシーを守るようにしている。	意思の表出が難しい方にも、丁寧に意向確認を行い、表情の変化や仕草をくみ取り、本人本位の対応に努めている。その日の希望や状態に応じて、その方にとっての時間の流れを尊重するよう支援を行っている。生活環境や個別の状態を踏まえ、人格の尊重やプライバシーの確保については、常に留意した対応となるよう周知を図っている。	
39			食事の際は、自分の意志を伝える事ができない利用者でも表情等を観察して、好きなもの、嫌いなのもを把握するようにしている。ほとんどの方が自分の気持ちを伝えることができない状況になられている。それでも、その思いを大事にして、その都度声かけをして事を進める様にしている。更衣の際はいくつかの服の中から話しかけながら選んでいる。		
40		〇日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ご したいか、希望にそって支援している			
41			利用者本人にとって愛着のある小物(ヘアピンやめがね等)を身につけている。また、定期的に散髪を行っている。そして、家族やスタッフからのプレゼントを身につけることで気分転換をしている。朝は一日の始まりとして更衣し身だしなみを整えている。		
42	(18)	や刀を活かしなから、利用者と職員が一緒に準備や 食事、片付けをしている	スタッフと共に会話を交えながら楽しく食事をしている。また、利用者の能力に合わせた食器等を使用し、本人が食べやすい大きさ、盛り付け、量に気配りをし、食事の時間が楽しみなものになるように心がけている。	炊飯はホームで行い、主菜等は厨房より提供されている。季節感あるメニューを提供し、ベッドでの介助が必要な方とともに、職員も居室で一緒に食事している。季節感に配慮し、行事にあわせた甘酒等も提供されている。	
43		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた	水分摂取量、水分の種類等、食事毎にチェックし管理している。その上で摂取が不足している場合は好みの味のものに変えたり、時間を変えたりして、不足しないように支援している。栄養に関しては通常の食事で補えない場合、高カロリー食等でバランスを取っている。		
44		ている	うがい、歯磨きなどが自分である程度出来る方は 声かけて促している。その後、口腔内の残渣物がないか、確認し、不十分である時は、スタッフが補っている。出来ない方は毎食後残渣物が残っていないか確認し、歯間ブラシ、スポンジ等を使いスタッフがケアをしている。		

自	外		自己評価	外部評価	<u> </u>
自己	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	〇排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの 力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排 泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	る事ができない状況になられた。各々の排泄間隔、	重度化へと移行している中で、可能な方へのトイレ誘導や、清潔保持や排泄用品の検討を行い、心地良く過ごせるよう配慮が行われている。排泄チェック表を作成し、個別の状況を確認している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫 や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組 んでいる	臥床時間が長い高齢の入居者が多いため、、多くの方が内服薬や外用薬の使用による、排便コントロールとなっている。栄養士による食事内容の管理をしてもらっている為、食事のバランスやカロリーについては十分な配慮がなされている。毎食時に必ず汁物を、10時、15時は補食、水分を提供し、便秘予防に配慮している。		
47	(20)	〇入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽 しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めて しまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、曜日や時間の幅を柔軟にとりいれ、なおかつ、安全で気持ちのよい入浴を楽しんでいただいている。そんな中でも、意志をはっきりと伝える事が出来る方はその気持ちを優先して、時間の調整をしている。	体調や希望、状況等を鑑み、支援を行っている。また、リフトが設置されており、浴槽につかることを大切に支援を行っている。	
48		〇安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、 休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援して いる	各自、起床、就床、離床の時間はまちまちである。 その日の体調や状況に応じて、離床しているが、長時間は難しく、休息となる。就床時は更衣、洗面、口腔ケアを行い、入眠になったころにラジオ、テレビ等を消す工夫をしている。夜なかなか眠りにつけない方には、眠前薬が処方されている。		
49		〇服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法 や用量について理解しており、服薬の支援と症状の 変化の確認に努めている	各自の服薬目的や副作用、用法や用量については薬事情報を参考にしている。誤薬が生じないように他のスタッフとで、薬の確認をし、服薬していただいている。臨時薬、薬の変更等は申し送りに記載し、確実に伝達している。		
50		〇役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽し みごと、気分転換等の支援をしている	以前は洗濯物を干したり、畳んだり、テーブル拭きなどができていたが、今は難しい。食事のメニューを伝え、美味しいですねと語りかけながら、食事を楽しんでいただく。面会時は家族等との有意義な時を過ごせる配慮をし必要に応じて近況報告をしている。 差し入れの嗜好品を取ることも多く、満足されている		
51	(21)	の人々と協力しながら出かけられるように支援して いる	身体の状態など支障のない場合は、職員が入居者を誘い、2Fベランダで日向ぼっこをしたり、1Fの玄関先にある花壇で花を楽しんだりする機会を作っている。また、近所にあるコンビニへ散歩をかねて出かけ、地域の方との交流の機会を作っている。家族より入居者との外出の希望に関しては、事前の体調	椅子を用い、リビングでの時間を過ごせるよう支援している。 重度化している中で、日常的な外出は難しい状況ではあるが、 医療や家族との連携のもと、その日の体調等に配慮しながら、日光	

		外部評価	6		
三	部	項目	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		〇お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望やカに応じて、お金を所持し たり使えるように支援している	入居者の要介護度が重度化しており、家族より了承を得た上でお金を預かり管理している。又、入居者自身が金銭を使用する機会も減少している現状がある。そこで近所のコンビニに外出する際に買い物をして、その機会にしている。さらに、家族にかわり預かっているお金で、入居者の嗜好品を購入する時もある。個人のこづかい帳をを作り、管理しており、時々、家族へ目を通してもらい、確認のサインを頂いている。		
53			介護度の進んだ入居者が多く、電話などの使用は 近年できていない。手紙は、以前は字を書かれる入 居者もいたが、こちらも同様に字を書く機会が減少 しているため、手紙という形での家族との交流も減 少している。これらのため、家族への近況などの連 絡方法としては、職員が季節ごとに手紙や写真など を送るなどで交流の援助をしている。		
54	(22)	トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくよう	な雰囲気を感じていただけるように心がけている。 浴室自体は内側より施錠でき、不意の入室を防いでいる。トイレ入り口は車椅子移動を考え、カーテンを 設置している、	1もよく、生活感のある浴り有いた芬州式ではつ()	
55		〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用 者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫 をしている	リビングには職員とともにくつろげる場所(ソファや畳の部屋)があり、一緒にお話をしたり、簡単なゲーム等をし、ゆったりくつろげる空間作りを心かけている。		
56	(23)	本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間がとれる様にしている。また、離床が困難な入居者には、テレビやラジオ、本人の好みの音楽等を流している。	介護保険施行前より開設され、2人部屋4室と、個室1室が用意されている。直線的ではない居室の配置やカーテンの設置、ベッドの位置等、出来る限りプライバシーへの配慮が行われている。臥床時の目線に合わせて、大切な写真が飾られていたり、CDやラジオの視聴等、個別の生活空間への工夫が行われている。	
57		〇一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送 れるように工夫している	歩行の困難な入居者にはベッドサイドにポータブルトイレを置き、またベッド柵に介助バーを使用して立位を取ってトイレに座れるようにしている。バーや手すりにつかまって立位を保てている力を大切にしている。		